

遠賀郡と改む、此郡北に海あり、東は豊前企救郡に隣りて大山をへて、西は宗像郡に對して、山を境とし、南は鞍手郡に平地つゝけり、山遠地平らかに、田地多くして境内廣し、土肥て穀ゆたかなり、大河あり、海近くして運漕の便よく、海味もともしからず、魚多く、國中第一の大郡なり、然れども深山すくなくして、水損多し、故に旱歲には他郡より豊作なれども、雨どしには凶饑にたえず、

〔日本書紀神武〕其年寅甲十有一月甲午、天皇至筑紫崗水門、

〔日本書紀仲哀八〕八年正月壬午、幸筑紫時岡縣主祖熊鰐、聞天皇車駕○中參迎于周芳沙歷之浦、而獻魚鹽地○中既而導海路自山鹿岬廻之入崗浦○下

〔續日本紀聖武十三〕天平十二年九月戊申、大將軍東人等言○中間講○講當申云、廣嗣於遠河郡家造軍營儲兵努而舉烽火、徵發國內兵矣、

〔大内家壁書〕從山口於御分國中行程日數事○中

筑前國○中御牧郡三日、請文十一日○中

寛正二年六月廿九日

備中守奉秀明○下

〔筑前國續風土記十二〕鞍手郡

此郡は、東は豊前に境ひ、南は嘉摩穗波に向ひ、北は遠賀郡につゝき、西は山をへだて、宗像柏屋に隣る、山高く大河流れて、山川の利少からず、土地肥饒にして、五穀ゆたかに、草木蕃茂して、薪材ともしからず、國中にて上座郡につぎては、上郡とすべし、中につゐて若宮吉川の河内は、たぐひまれなる佳境なり、聖德太子の傳に曰、守屋二男片野回連、四男辰狐連等を筑前國鞍手郡に流連、

〔大内家壁書〕從山口於御分國中行程日數事○中

筑前國○中鞍手郡四日、請文十三日○中

寛正二年六月廿九日

備中守奉秀明○下